



2011 国際森林年



# 森林やまがた増刊号 「やまがた緑環境税特集」

飯豊町で開催された森の感謝祭



緑県民会議現地視察状況。(酒田市南平沢)



新庄市で開催された最上地域森林づくり報告会

**森づくりの輪が広がっています!**  
**6月第1土曜日は「やまがた森の日」**  
**森づくりの輪に参加しましょう。**

## — 森林やまがた増刊号 目次 —

やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声… 2  
 やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と事業展開… 3  
 環境保全を重視した森林整備 1 …… 4  
 環境保全を重視した森林整備 2 …… 5  
 やまがた緑環境税を活用したナラ枯れ被害対策について… 6

森林所有者へのアンケート調査結果…………… 7  
 各総合支庁での県民参加の森づくり推進…… 8～11  
 自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進…12～13  
 新たな森づくりの推進体制の整備……………14

**県民の皆様のご協力に  
深く感謝申し上げます。**

「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森を守る事業に活かされています。



## やまがた緑環境税を活用した 森づくりに対する県民の声

つるおか森の保育研究会会長 神田リエ

### 森の中に子どもたちの声が響きわたります。

くるくると丸まった落ち葉を指にはめて遊んだり、木漏れ日を浴びながらハンモックに揺られたり、森の時間をゆっくりと過ごします。冬の森ではかんじきを履いて歩いたり、そりすべりをしたり、楽しみがいっぱいです。寒い日も、雨の日も、風の日も、子どもたちは元気に森をかけまわります。

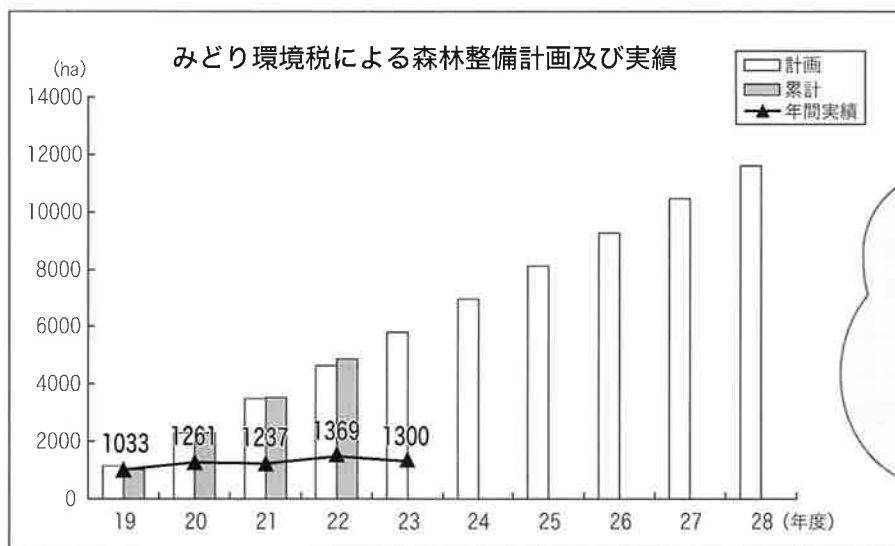
山形県は海から里、山まで、豊かで多様な姿の森林が見られます。これまで県内各地において、森林を活用した体験学習に取り組んできました。近年では、乳幼児を対象とした自然体験の取り組みも数多く実施されるようになりました。

乳児期から幼児期における森林での日常的な体験が心身の発達に、そしてその後の自然との接し方に大きな影響を与えているといわれています。四季折々の森での散策や遊びを通し、また動物や植物にふれたりすることによって、いろいろなことに気づきます。子どもたちは五感と身体をいっぱい使って、森の中での体験を積み重ねていきます。

『やまがた緑環境税』を活用した事業の中にも「未就学児及び低学齢期における自然体験活動」や「森のようちえん」などが含まれています。その取り組みの実践報告や情報の共有などにより、学び合い交流する機会も増えてきました。地域の人々とのつながりも深まっています。

古来より人々の暮らしと深くかかわり合いながら育まれてきた森の文化には、地域の歴史や風土が反映されています。その基盤となる森林は先人からの贈り物であり、未来へと引き継いでいくものです。幼少期から森に親しみ、森を知り、日々の暮らしの中に森林とのつながりを深めていくためにも、子どもたちの森林体験の場がさらに充実したものになっていくことを願っております。

## やまがた緑環境税を活用した森林整備の進捗状況



平成22年度末までの  
整備面積累計は4,901haで、  
10ヶ年の整備計画量に対して  
**進捗率42.3%**です。

注：平成22年度実績は3月末見込みです。

# 〈やまがた緑環境税を活用する事業の考え方と事業展開について〔平成22年度〕〉

H22やまがた緑環境税活用事業 702,705千円(3月末見込み)

## I 環境保全を重視した施策の展開 (553,317千円)

### ① 環境保全を重視した森林整備の推進 (506,692千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】◇荒廃森林緊急整備事業 1,369ha(森林課:506,692千円)

スギ人工林を広葉樹が入り混じった森林へ誘導 事業量 149ha

広葉樹を導入するための強度の間伐や植栽、作業路の設置など



～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～



スギ人工林をいろいろな樹齢からなる森林へ誘導 事業量 926ha

間伐や作業路の設置など、森林組合等が森林所有者に代わって施業を一元管理し、森林の公益的機能を維持する仕組みを構築



～多様な樹齢からなる森林が画的に配備され、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～



病害虫などで荒廃した里山林の再生 事業量 294ha

病害虫被害木の伐採、広葉樹の植栽、簡易土留柵の設置など



～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～



### ② 環境保全に配慮した資源循環利用の促進 (46,625千円)

【森林環境緊急保全対策事業費】(森林課:46,625千円)

◇森林資源循環利用促進事業 事業量 30,423m<sup>3</sup>[拡充]

合板、パルプ、ベレット、燃料用チップ等間伐材の総合的利用のための搬出支援

◇広葉樹林健全化促進事業 事業量 9,420m<sup>3</sup>[新規]

広葉樹林の伐採と伐採木の利用を図り更新による森林の健全化の推進及びナラ枯れ予防対策を実施



## II 21世紀にふさわしい県民と森林の関わりの構築 (130,708千円)

### ① 県民参加の森づくりの推進 (115,498千円)

【県民みんなで支える森・みどり環境公募事業費】(みどり自然課:28,609千円)

NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動の支援

- 事業項目及び例示
- 1 森林・自然環境学習(学校やPTAとの協働による環境学習、森づくり体験)
  - 2 自然環境の保全活動(河川の水環境、希少野生生物の保全活動)
  - 3 豊かな森づくり活動(里山林の保全活動)
  - 4 森林資源の利活用(県産材を使った木製品の導入、間伐材の利活用)

【みどり環境交付金事業費】(みどり自然課:86,889千円)

市町村が地域の課題に応じ、主体的に取り組む森づくり活動等の支援

※基本配分枠50,000千円(H21:60,000千円)特別配分枠40,000千円(H21:30,000千円)

- 事業項目及び例示
- 1 森林・自然環境学習(学校林等の整備、活用、緑の少年団を対象とした取組み)
  - 2 自然環境の保全活動(河川の水環境保全、希少野生生物の保全)
  - 3 豊かな森づくり活動(地域住民や企業との協働による森づくり)
  - 4 森林資源の利活用(県産材の普及啓発、間伐材やバイオマスの利活用)

### ② 自然環境保全対策の推進(8,797千円)

【動物共生の森づくりモデル事業費】

(みどり自然課:377千円)

野生動物との共存を図る緩衝林帯整備技術の蓄積

【自然環境総合モニタリング事業費】

(みどり自然課:6,746千円)

自然環境の異変を早期に察知する調査検討

【大型鳥獣等野生復帰事業費】

(みどり自然課:1,674千円)

傷病等で救護された野生鳥獣復帰支援

### ③ 自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進(6,413千円)

【自然環境学習推進事業費】

(みどり自然課:2,113千円) [拡充]

指導者の育成支援や教材等の作成、学校林活用型支援モデルの実施

【総合支庁実施事業費】(3,500千円)

◇村山自然環境学習推進事業(村山総合支庁)

・村山版「森のようちえん」普及推進事業(森林整備課)

◇最上自然環境学習推進事業(最上総合支庁)

・次世代に誇れる森林文化創成事業(森林整備課)

◇置賜自然環境学習推進事業(置賜総合支庁)

・県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業(福祉課)

・「動物共存の森」学習体験事業(環境課) [新規]

・おきたま森林自然環境学習推進事業(森林整備課)

◇庄内自然環境学習推進事業(庄内総合支庁)

・出羽庄内公益の森づくり事業(森林整備課)

【元気な森の学校推進事業費】

(教育やまがた振興課:800千円)

少年自然の家を活用した森林環境学習の実施

## III 新たな森づくりの推進体制の整備 (18,680千円)

【やまがた緑県民会議費】 [拡充]

(みどり自然課:1,228千円)

緑県民会議の開催、緑環境税制度・税活用事業の評価検証

【新たな森づくりの普及啓発事業費】 [拡充]

(みどり自然課:7,614千円)

普及啓発、森づくり行事の開催、やまがた絆の森プロジェクトの実施

【森づくりサポート体制推進事業費】

(みどり自然課:9,302千円)

県民参加の森づくり活動の総合的な支援、企業の森づくり活動の支援

【森林資源の活用による低炭素社会構築事業費】

(森林課:536千円)

森林整備等による二酸化炭素の吸収削減量の評価・認証制度の試行

### 県民への普及啓発

- ・環境憲章、シンボルマーク
- ・森づくりへの理解

### やまがた緑県民会議

- ・事業の評価検証
- ・施策の点検、見直し

### 公益の森づくり支援センター

- ・情報発信、技術支援
- ・活動のネットワーク化



# 環境保全を重視した森林整備1

## 税事業で整備した里山を 地区住民が再生活動を継続

### 山形市谷柏山の事例

山形市の南西部に位置する谷柏山で、荒廃森林緊急整備事業による里山林の整備を行うと共に、地区民が協働で森林整備活動に取り組みました。

谷柏山は、集落に隣接した標高約200mの里山で、山頂からの眺めが良く、小学生が遠足で訪れる地元のシンボルです。しかし、長年のマツクイムシ被害、近年のカツラマルカイガラムシ被害やナラ枯れ被害による枯損木が多数見られ、森林の荒廃が進んでいました。平成22年度に里山林再生のため税事業で被害木等の伐倒・整理17.0haと作業路422mの開設を実施しました。

また、谷柏地区では、谷柏山の景観を整備する森づくりに取り組むため、全世帯207戸が参加して「谷柏山の景観を整備する会」を平成22年1月に設立しました。

平成22年度は、みどり環境公募事業を活用して、オオヤマザクラの植栽や林地の下刈り、散策道周辺の刈払いなど延べ105人が参加して行いました。



地元住民による森林整備活動(散策路整備)

平成23年度以降も、作業路周辺の林地の刈払いや植樹活動、散策路の整備などの森林整備活動を継続的に行うことにしています。

税事業で整備した森林を、地区民が協働で整備活動を継続することで、荒廃した森林が早期に回復し森林機能が向上すると共に、里山や森林への興味・関心の広がり、森林整備活動の活性化などが期待されます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

## 森林整備と併せた作業路整備の推進

### 金山町上台地区の取り組み

最上地域における、やまがた緑環境税を活用する「荒廃森林緊急整備事業」については、長期間手入れされずに荒廃又は荒廃が危惧される森林を10年間に1,861haを整備する計画です。

森林所有者をはじめ市町村、森林組合等関係者の御理解と御協力のもと、平成22年度(見込)まで森林整備済面積は918ha、作業路整備延長は24,392mとなり進捗率は49%となっております。

今回紹介する、金山町上台地区の整備区域9.7ha(24~43年生)は、下刈り以降手入れがされず、林内は暗く被圧木などを含むもやし状態(高密度)でスギが生育しておりました。そのため、当該地区には長期育成林タイプの整備手法を採用する方針で、県外所有者を含む6名全員の合意形成のため、説明会の開催や封書による事業内容説明等を行い、森林整備と併せ、隣接した農道からの作業路(細野山線L=1,240m)を林内に作設することができました。



間伐材の搬出状況

そうした取り組みにより、森林所有者が作業路の路線選定時に積極的に立会するなど、森林所有者の森林整備に対する意欲向上と林内に放置されることが多い低質材の伐採木をいくらかでも搬出し、有効活用を図ることができました。

山に行きたくても道が無い状況では、森林所有者の関心が薄れ、所有界も不明な状況に陥ってしまいます。森林の健全な育成には路網整備が重要な要素です。放置・荒廃している森林の所有者に関心を高めていただくため、これからも税事業を活用した路網整備も併せて推進し、森林を守り・育て、健全な森林へ誘導していきたいと考えております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 環境保全を重視した森林整備2

## 地域に根ざした里山林の整備

### 置賜地域の取組み

夏の暑さから解放され、秋風が吹き始めるころ、置賜地域はマツタケ狩やぶどう狩等の行楽シーズンを迎えます。こうした恵みを育む源には豊かな里山林があり、私達の生活に潤いを与えてくれます。しかし、この里山林が近年マツクイ虫やナラ枯れの被害に遭い、荒廃していることは新聞やニュースで取り上げられ、ご存知の方も多いかと思えます。

置賜地域ではこのような被害に遭った里山林を緑環境税事業により平成22年度は132ha整備しました。この数値は県内トップレベルです。地元の方の里山へ対する愛着が数値に反映されたものと感じています。米沢市を中心とする地域では森林組合が林業座談会を開催し、山主様の理解を得ながら事業を進めていますが、必ず座談会では病害虫により荒れた森林の話題が活発に議論されます。

米沢市の広幡地区では森林組合の働きかけにより、24名の山主様から事業へのご理解をいただき、



里山林30haを整備することができました。この度、整備した箇所は直ぐ脇を国道287号がとおり、近隣には地元の子供達に通う広幡小学校や豊かな水田が広がる地域です。地域の方から見れば、生活の中に溶け込んでいた森林と言えます。

平成23年度、置賜地域では130haの里山林を整備する予定ですが、この準備のため昨年10月から説明会を開催してきた地域もあります。今後も、地元の方の協力を得ながら、里山林の整備を進めていこうと考えています。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

## 森林整備活動に広がり

### 酒田市黒森・浜中地区の取組み

庄内総合支庁管内には、県内唯一の海岸クロマツ林が存在しています。しかしながら、近年の松くい虫被害やニセアカシアによるクロマツの被圧により、機能が低下した森林が増加しています。

酒田市黒森と浜中地区では、飛砂防止等のために植栽されたクロマツが、外来樹種のニセアカシアの侵入により生育被害を受け、飛砂防止機能の低下が懸念される状況にあります。このため、ニセアカシアを除去し健全なクロマツ林に誘導し機能の回復を図る必要があります。

支庁では、平成19年度から「やまがた緑環境税を活用した事業」で、枯損木やニセアカシアの除去を実施し、平成22年度は、同事業によりニセアカシアの抜き切り等、約6.8ヘクタールの森林整備を実施しました。

一方、同事業の導入以降、森林所有者自らが森林整備を実施するなど、森林所有者の管理意欲に高まりを見せるとともに、PTA活動においてクロマツの植林活動が展開されるなど、森林整備活動に広がりを見せています。



森林整備状況

また、事業で発生した伐採木を地域住民が薪などの燃料として利活用する取組みや、さらには、支庁と地元業者の協働により、ニセアカシアのペレット化の可能性について共同研究を実施するなど、森林資源の有効活用の取組みも行われています。

このように、同事業の導入を契機に、各方面において多様な取組みが萌芽していることから、これらの取組みが地域内にしっかりと定着し更なる広がりにつながるのと同時に、森林資源の有効活用をとおした持続的な森林管理の促進が期待されます。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

# やまがた緑環境税を活用したナラ枯れ被害緊急対策について

## ～広葉樹林健全化促進事業～

### 広葉樹の伐採利用により、害虫の駆除と林の若返りを進めます。

#### ◆里山の広葉樹林は...

かつて里山の広葉樹林はおおむね20年のサイクルで伐採され、薪や炭などに利用されてきました。しかし近年、石油やガス、電気などのエネルギーが主役となり、伐採されずに大径木が増えた広葉樹林では、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの集団発生などが起きています。

#### ◆広葉樹を活用すると...

広葉樹を伐採しその木材を利用すると、

- ①「ナラ枯れなどの被害林では、木に付いた害虫を駆除できること」
- ②「広葉樹は切株から萌芽する性質があり、林が若返ること」
- ③「伐採木は木材資源として有効活用できること」等が期待されます。

こうしたことから、県では、高齢化に向かうナラ林を伐採し、被害材を含めたナラ材の有効活用を図りながら、萌芽更新により被害を受けにくいナラ林にすることを目的に、森林所有者、森林組合、素材生産業者などに対し、伐採・搬出経費の一部を助成（定額）する「広葉樹林健全化促進事業」を行っています。

#### ◆事業の概要

##### 1. 助成額

広葉樹の伐採利用により「カシノナガキクイムシの駆除」、「広葉樹林の若返り」、「木材資源の有効活用」を促進するため、県が伐採搬出経費の一部を助成します。（助成額：搬出材積1㎡当たり1,000円。さらにおとり木（丸太）実証試験の対象となる場合は、1箇所当たり50,000円を加算します。）

##### 2. 対象事業

民有林の広葉樹を主体とするおおむね5ha以下の林において、皆伐を行い、伐採木をすべて搬出利用するもので、次に該当するものです。

- ① これまで、25%以上のナラ枯れ被害が発生したナラ林、または、今後25%以上のナラ枯れ被害が発生（被害を受ける恐れのある木が25%以上）する恐れのあるナラ林で、平成24年3月20日まで被害木の処理が完了するもの。
- ② 伐採木の搬出のため、搬出路を開設する必要のあるナラ林が対象となります。
- ③ 予算や搬出路の開設延長の状況等により助成の対象となる材積が調整される場合があります。

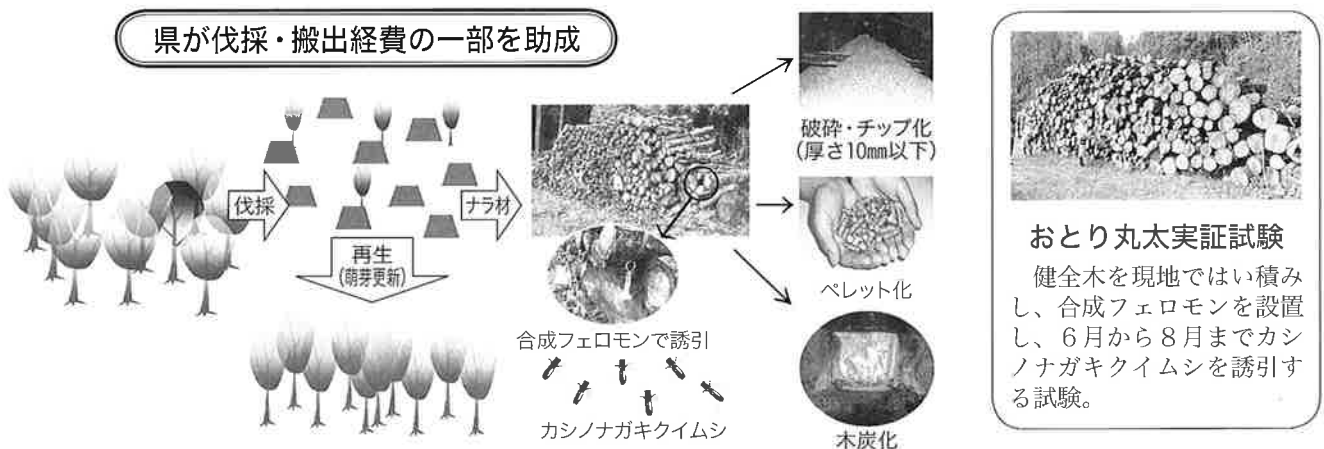
##### 3. 対象者

県内に住所を持つ森林所有者又は本店、支店を有する森林組合や素材生産業者です。

##### 4. 募集期間

第1期分は、平成23年4月1日～4月30日です。（※第2期募集は、平成23年7月下旬頃を予定しています。）

詳しくは、各総合支庁森林整備課または、県庁森林課森林整備担当までお問い合わせください。



# やまがた緑環境税事業が行なわれた森林の所有者へのアンケート調査について

平成22年8月～9月にかけて、アンケート調査をやまがた緑環境税事業が行われた森林の所有者835名に対して行ないました。その中の504名から回答を得たので、その結果について報告します。

## 【主なアンケート内容】

### ① あなたの年齢は？

→回答者のうち約4分の3が60歳以上となり、森林所有者の高齢化が、改めて明らかになりました。

### ② 事業実施後の森林についてどう思いますか？

→満足が77%に対して、不満は8%と非常に少なく、税による森林整備の満足度が高いことが分かりました。

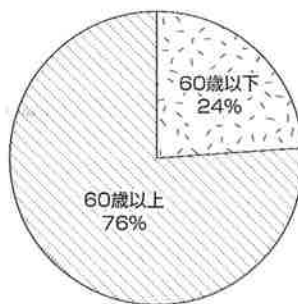
### ③ 税による森林整備に同意した理由は何ですか？

→「自分でできないから」が49%、「自己負担がないから」が24%、「森林の荒廃を防ぐため」が14%、「森林組合からお願いされて」が8%、「実際に事業を実施した現場を見て」が2%という結果から、森林所有者が自力で森林整備を行なう状況にはないということが分かりました。

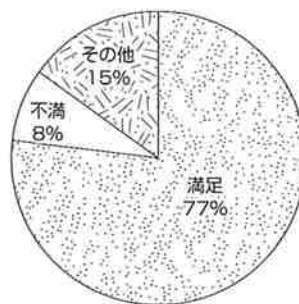
### ④ やまがた緑環境税に、今後どんなことを望みますか？

→「森林整備をもっと広範囲にやって欲しい」が34%、「木材の販売支援に力を入れて欲しい」が25%、「自主的に森林整備を行っている人への支援をして欲しい」が19%、「森林の境界確定をして欲しい」が14%であり、この結果から森林整備の充実と共に森林を取り巻く様々な問題について、税事業の活用を望む声があることが分かりました。

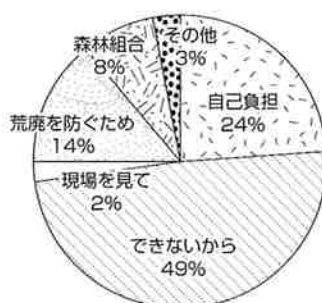
### ①回答者の年齢



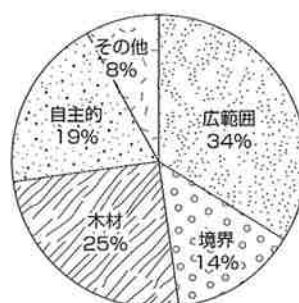
### ②事業実施後の森林について



### ③同意した理由



### ④税事業に今後どんなことを望むか



## 【森林所有者の皆様から頂いたご意見・ご要望（順不同）】

- ・間伐の本数を多くしてもっと日が当たると良い。
- ・松枯れ等による空きスペースへの植林。
- ・ナラ枯れ対策にも力を入れて欲しい。
- ・保安林の整備もお願いしたい。
- ・大変良いことです。続けて欲しい。
- ・作業道を作ることも積極的にしてほしい。
- ・森から収益の上がる仕組みを作って欲しい。
- ・間伐材を全量搬出して欲しい。
- ・山林の境界を教えてもらいたい。
- ・一般の人へのPRを進めてもらいたい。
- ・県から、小さい面積の森林の統合を進めていただくと森林の公益性が増進すると考えます。 など

これらのアンケートの結果からは、管理放棄した森林の所有者は、高齢化が進んでおり、森林整備の必要性は十分認識しつつも、自ら経営を行うことが難しい状況であることが伺えます。今後5年間の税事業については、「森林整備をもっと広範囲にやって欲しい」と答える回答者が多いことから、税事業対象となる森林の見直しなどを行い、内容を充実させていく必要があります。

平成24年度からのやまがた緑環境税事業は、このような皆様からのご意見を参考にしながら、やまがたの緑を未来へ引き継ぐための取り組みをさらに進めていきます。

今後とも県民みんなで支える森づくりについて、ご理解とご協力とご支援をよろしく申し上げます。

### 『平成22年度村山地域森づくり活動報告会』

平成23年1月29日(土) 河北町総合交流センターサハトベに花交流室(西村山・北村山会場)

平成23年1月30日(日) 山形国際交流プラザ(山形ビッグウイング)中会議室(東南村山会場)

今年度の報告会は、西村山・北村山会場、東南村山会場の2会場で開催されました。西・北会場は、55名、東南会場は103名の参加を得て、ポスターセッション、活動報告、「森づくりを語ろう」と題した意見交換会が行われました。

ポスターセッションでは、それぞれ趣向を凝らしたポスターを掲示し、団体、市町間等で活発に意見が交わされ、大いに盛り上がりました。活動報告では、全市町、公募事業実施全団体から発表していただきました。約3分と短い時間での発表でしたが、発表者のみなさんは、活動内容を、簡潔かつ的確にまとめてくださって、とてもわかりやすい報告会となりました。

また、森づくりを語ろうは、西村山・北村山会場に山形県森林インストラクター会会長鈴木秀伸氏、東南村山会場に東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科講師渡部桂氏をそれぞれコーディネーターにむかえ、現在の活動での問題点や、これからの活動のポイントなどについて議論されました。参加者からはおおいに参考になるなどの声が上がっていました。

報告会を通じ参加者の森づくりに対する意識が、より一段と高まったように思います。今後とも活発な森づくり活動を期待いたします。



西・北村山会場



東南村山会場

### 『身近な森づくり』

みどり環境公募事業・東北芸術工科大学森づくりの会

#### 【発表者の声】

平成22年7月25日、山形市悠創の丘近くの森林で、会員29名が参加し、スギ林の間伐の選木、伐採、材の搬出などの森づくり活動を行いました。

講師の方から間伐の必要性等を教えてもらいながら、伐採する木を選び、伐採作業を行いました。初めてのチェンソー体験であり、一部から「大変だ・怖い」などの声が聞かれましたが、「楽しい・気分最高」などの声も多くあり、楽しみながら、玉切りまで無事に作業を終えることが出来ました。

材は、自分たちの手で「木は重いね」などと言いながら大学まで運び入れました。そして、卒業制作の構造模型やキャンパスのフレーム、ペン立ての材料として利活用することになっています。

活動を通して、人と森との共存の必要性を感じることができ、有意義な活動となりました。今後も森づくりを続けていきたいと思えます。



### 『みどりの少年団育成事業』

みどり環境交付金・村山市

#### 【発表者の声】

平成22年9月25日に村山市山の内自然交流施設「やまぼと」で今年度2回目の村山市緑の少年団交流会が行われました。

この交流会は平成17年度から開催しており、平成19年度から交付金事業として実施しています。

今回の交流会には市内8つの小学校から約80名の団員等が参加し、木工クラフトと林業体験を行いました。今回の林業体験では、枝打ち作業を行いました。団員達は、講師の村山市林業クラブの方々から設置してもらった一本梯子に登り、片手で梯子をつかみながら、一生懸命枝打ちをしました。最初は怖々と作業していた団員も、枝を落とすたびに、「楽しくなってきたよ」などと話しながら、生き生きと作業を体験することができました。

毎年この交流会を通じて、友達の輪が広がっているようです。これからも、森林体験を通じた交流会を続けていきたいと思えます。





### 『最上地域森づくり報告会』

平成23年1月22日(土) 新庄市「新庄市民プラザ3階小ホール」

近年稀に見る大雪の中開催された最上地域森づくり報告会は、吹雪にもかかわらず80名余りの参加者が集まりました。

冒頭に「森づくり活動を盛り上げるための大切な視点」と題して、環境イベントプロデューサーの西直人氏の基調講演がおこなわれました。

聴講者同士による1分間の自己紹介の実技を交えておこなわれた講演では、情報の発信と編集が巧みである団体は活動が活発で元気になるという話が語られました。

情報発信する際には、『イベント等の情報に併せて、団体自体や実績についての情報も入れると、受け手の信頼や共感を得ることができるので、「初めての人でも参加し易くなり活動が広がる」「助成金を得易くなる」「紹介してもらえる機会が増えて連携が広がる」「地域の理解や協力が得易くなる」という効果がある』という話や、『伝える「相手」と「目的・内容」を絞って、表現や発信方法等を選択することによって伝達力が格段に強くなる』という話は大いに今後の活動の参考となるものでした。

その後、豊後富也氏の進行で管内のみどり環境公募事業、交付金事業及び絆の森事業の実施団体によるポスターセッションをおこないました。力の入った発表をする団体が多く、予定した時間を超過してしまうほどでした。参加者には講演と併せて貴重な情報収集、交換の場となりました。



西直人氏の講演の様子



ポスターセッションの様子



1分間自己紹介の様子

### 『地域と連携した幼児のための森プレーパークづくり』

みどり環境公募事業・大堀保育所保護者会(最上町)

#### 【発表者の声】

保育所の職員と保護者の方達が協力して、近所の里山(通称お山王)を整備し、幼児達のプレーパークづくりに取り組みました。

地元の森林ボランティアの方にも協力してもらいながら、関係者みんなで林内の下刈りや枝打ち、倒木の処理をおこない、歩道等を整備して、幼児が安全に豊かな自然体験ができるスペースを作ることができました。



森林整備の様子

ソングが作られる等、関係者の結束も強まりました。



森づくり活動の様子

また、保護者から幼児までみんなが参加したおかげで、お山王のテーマ

### 『自然環境学習事業』

みどり環境交付金事業・真室川町

#### 【発表者の声】

地域の林業経験が豊富な方々に指導してもらいながら、町内各小学校の児童たちが、自分たちの学校が所有する学校林や悠々の森の森林整備に取り組みました。

児童達は地域の方の説明と、下刈り、除伐等の作業を通じて森林施業のやり方や、道具の使い方だけではなく、森林施業の意味や森林の働き、自然との共生について学びました。



地元の方の説明の様子

また、地域の方と一緒にあって森と触れ合い、楽しみながら学習したことにより、地域の森林や自然に対する理解や愛着も深まりました。

### 『置賜地域の森づくり報告会』

平成23年1月15日(土) 長井市「長井市民文化会館」(西置賜会場)  
 平成23年1月16日(日) 米沢市「伝国の杜」(東南置賜会場)

置賜地域の森づくり報告会は県内6箇所で開催された報告会の先陣をきって2日間にわたり行われました。長井市民文化会館で行われた西置賜会場の森づくり報告会では、大雪の中でみどり環境公募事業実施団体や市町職員など約60名が参加し、活発な意見が飛び交う報告会となりました。

活動発表では、各団体の活動に対する熱い「想い」が感じ取られ、地域や会員等で荒廃した森を整備して次世代につないでいくという強い決意を持った発表もありました。また、意見交換では、「継続的な支援をお願いしたい」「公募事業の査定が厳しく活動資金が不足している」「病虫害防除の費用も認めて欲しい」などの要望がでました。

東南置賜会場では、午前中、『里山林の再生と地域づくり』と題して、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長の澁澤寿一氏の基調講演が行われました。講演では、森林と人とのつながりが高度成長期を境に薄れてしまってきた歴史を具体的な事例を示して紹介し、昔に戻るのではなく今からできることをみんなで考えていくべきであると、飯豊町の中津川の取り組みや岡山県真庭市の森を活用した地域づくりの事例を交えてわかりやすくお話いただきました。

また、基調講演の前には、「やまがた森の日」となった昨年6月5日、源流の森で開催された「やまがた森の感謝祭2010」で吉村知事から手渡された県内各地域の森づくりをつないだりレー旗が、学校林活動を実施している米沢市立三沢東部小学校の子供たちから県に返還されフィナーレを飾りました。

お昼の時間には、多くの人にやまがた緑環境税を活用した取り組みを知ってもらうため、I Fロビーでポスターセッションが行われ賑わいを見せていました。

活動発表は、全公募団体及び東南置賜地区の各市町から発表してもらったため、持ち時間が1団体あたり2分と短くほんのさわりの部分の発表となってしまいましたが、各団体とも活動概要と活動に対する「想い」、今後の活動予定などを時間どおりに発表していました。



西置賜会場の様子



東南置賜会場の様子

### 『二井宿自然塾・炭焼体験』

みどり環境公募事業・二井宿地区子ども会育成会連絡協議会

#### 【発表者の声】

当協議会の子供達が通学している二井宿小学校の周辺で自然体験学習や森林整備活動を実施しています。

小学校のすぐ脇には活動の拠点となる炭焼き小屋やキャンプ場があり、基地づくりや近くに流れる大滝川に生息しているゲンジ螢の観察会など様々な活動を行っています。

地域で景観整備のため間伐した広葉樹をもらい受けて、地区内の炭焼き名人と炭焼体験を行ったときは、炭窯ののぞき穴を見て「木が燃えているのに



炭窯に薪を入れる子どもたち

何でなくならないの」などと言いながら、初めての経験に歓喜の声を上げて楽しんでいました。

### 『森から拓く時代の生業づくり事業』

みどり環境交付金事業・小国町

#### 【発表者の声】

小国町では、町内の全中学校を対象に豊かな森林を生かした炭焼きや木質バイオマス事業、キノコ栽培などで生活しているUターン又はIターン者を講師に招き、地域の自然に対する想い、体験談などの講義を行い、実際の技を体験する事業を行いました。

生徒からは、「昔の人が育て守ってきた小国の自然を私達も大切にしていきたい」といった感想が聞かれ、自然資源を活用した職業について理解を深めるとともに、あらためて地域の魅力に気づくことができました。



U.I ターン者の話を聞く中学生

### 『庄内地域森づくり報告会』

平成23年2月6日(日) 酒田市「酒田勤労者福祉センター」

県内6会場で行われる森づくり報告会の最後を飾る庄内地域の報告会は、みどり環境公募事業・交付金事業を実施している団体・市町のほか、森づくり活動に興味のある団体・企業や一般の方など多くの方々からの参加があり、参加者数は合計で110名以上となりました。

ポスターセッションでは、活動概要を紹介するポスターの展示・説明のほか、団体の会報・資料や木工体験で実際に作成した机の展示など、団体ごとに特色のある展示が行われました。普段交流することの少ない団体間の交流も促進され、「多くの団体が森づくり活動をしている事に驚いた」、「今後の活動の参考になる」などの感想が聞かれました。続いて行われた森づくり活動報告・意見交換会では、当日参加した23団体・5市町から活動内容等の発表と、それに対する質疑等が行われました。会場からは、保育園等での未就学児を対象とした活動の留意点や河川周辺森林の利活用について、また来年度の活動予定についてなど様々な質問や意見等が出され、活発な意見交換が行われました。

今回の報告会開催により、やまがた緑環境税を活用した森づくり活動について、地域の多くの方々を知っていただく良い機会とすることができました。また発表団体にとっても、活動を振り返り、成果や課題等を確認するきっかけになったと思います。今後も、このような機会を通じ、やまがた緑環境税を活用した森づくり活動の成果等を幅広く発信し県民参加の森づくり活動の輪を広げていきたいと考えています。



会場状況



ポスターセッション状況

### 『やまからうみネイチャーファイリング』

みどり環境公募事業・イヌワシの森倶楽部(酒田市)

#### 【発表者の声】

未就学児～大人を対象に、山から海を舞台に森や野生動物との共存を感じる体験活動を行っています。8月には小学生親子を対象に八森自然公園にて「鳥海山麓八森こども自然学校」を鳥海やわたインタープリター協会、緑の玉手箱と共に開催し、森の探検、昆虫採集、魚とりなど多彩なプログラムで参加者から好評を得ました。また、10月には酒田市上田保育園児を対象に鷹匠の松原英俊氏と交流しました。実際にイヌワシに触った園児は「やわらかい」、「緊張する」などと驚いた様子でした。



代表の高橋氏の「生物が豊かに暮らせる森林を大切にしたい」という思いが今後も子供たちに広がることを期待します。

### 『さかた木づかい夢ネット』

みどり環境交付金・酒田市

#### 【発表者の声】

平成19年6月に森林所有者、林業、製材業、木材卸、設計、大工・工務店のネットワーク組織として発足し、市民へ地域材利用を促し、森林荒廃の防止、循環型社会の形成、住宅建築の伝統技術の継承発展を目指し、林業担い手・後継者への研修会の開催、家づくり相談会、市民の森林視察会などの活動を展開してきました。また、隣県の地域材利用先進地視察により、民間の水平連携協議会の発足と平成22年12月に山形県内最大の木材乾燥施設「協同組合やまがたの木乾燥センター」を整備運営する組織の設立へと発展したことは、交付金事業の成果と考えております。今後もこの活動が広がり、地域循環型社会形成への事業が展開することを期待しています。



## 『子どもたちに伝えたいこと…森にはたくさんあります』

～平成22年度「森林環境学習指導者研修」から～ 【森林研究研修センター】

平成22年度「森林環境学習指導者研修」及び「学校林環境学習推進指導者研修」を開催

県では、学校教育における森林環境学習の実践を支援するため、教職員を対象に「森林環境学習指導者研修」を開催しています。今年度も、7月29日と30日の2日間、西川町の森林研究研修センター試験実習林において、感覚を使った森林体験、森林環境学習のための具体的なアクティビティなど、実践的な内容で実施しました。参加した先生からは「こういう学習が盛んに行われる社会になると良い」、「今までに知らなかったことがたくさんあり勉強になった」などの感想が寄せられました。また、今年度からの新たな取り組みとして、学校林を活用した環境学習を支援する「学校林環境学習推進指導者研修」を開催しました。今年度は、寒河江市立幸生小学校をモデル校として、広葉樹林の整備や森林観察路の開設と、整備したフィールドを使っての環境学習を実施しました。県内には、現在139校に合せて1,138haの学校林がありますが、その活用は低い状況にあります。学校林は今後、教育財産として、また地域コミュニティづくりの拠点としてその活用が期待されるところです。

森林は、さまざまな動植物や菌類、土壌、大気などの複雑なつながりの中で成り立っています。そこには、子どもたちに伝えたいことがたくさん存在しています。来年度も、学校教育を通して森林と仲良く付き合える



「森林環境学習指導者研修」  
感覚を使って森を感じる



「学校林環境学習推進指導者研修」  
秋の広葉樹林を観察する

子どもたちを育てていくため、2つの研修をより充実させた内容で実施していく計画です。なお、県内の各小学校に配布されている副教材「やまがたの森林」や、現在作成に向け検討している森林環境学習活動の手引きについても、学校と連携しながらその効果的な活用について検討していきます。

## 『森の中で親子のふれあいを』 【生涯学習振興課】

県内4地区の少年自然の家では、身近な里山や森林などに家族で親しむ体験プログラム「元気な森の学校推進事業（家族ふれあい体験教室）」を実施しています。

【金峰少年自然の家】『はるかぜトレッキング（4月4日）』

親子向け活動として、午前中は、実際に山に出るの春の草花などを見ながらの散策を行うとともに、親子で1台デジカメを持ってもらい、木々の新芽や春の花などを写真に撮っていただきました。

午後からは、森林素材を使ったクラフト活動「フォトフレーム作り」を行いました。フォトフレームの素材は、山から切り出した物を使用しました。午前中に撮った写真の中でお気に入りの1枚を印刷し、それぞれが作成したフォトフレームに入れ、お土産となるようにしました。

参加者からは、「大変楽しかった。」「幸せな時間を過ごすことができた。」「大変よい活動だった。」などの感想をたくさんいただきました。鶴岡・酒田だけでなく、遠くは山形からも参加いただき、金峯山の里山の魅力を知ってもらうことができました。

【神室少年自然の家】『親子ふれあい体験教室（2月26～27日）』

雪上トレッキング「雪山ヘレツゴ」やスノーチューブ滑りなど、冬の雪山の中で、親子で楽しく活動する時間をたっぷりとりました。また、調理やスノーランタンづくり、親子での森のお話の読み聞かせなど、家庭でも気軽にできるプログラムを取り入れることで、実際に家庭でも実践できるような活動を紹介しました。



参加者からは、「親子の共同作業や体験が多くあり、とても楽しかった。」「親と子がゆっくりできる（じっくり過ごす）時間がとれ、ありがたかった。」などの感想をたくさんいただきました。

また、今回の元気な森の学校推進事業には、前回から引き続き参加くださった方も多く、7割近くの方がリピーターでした。これからも、四季折々の森林を満喫できる魅力的な体験プログラムを提供していきたいと思っております。



### 『動物共存の森学習体験事業』

～野生生物(ツキノワグマなど)と人間の共存を考える～

【置賜総合支庁環境課】

米沢市の高校生等を対象に、野生生物と共存できる自然環境学習講座を、置賜総合支庁と置賜野鳥救護所を会場として10月23日に35名の参加者により開催されました。置賜地域には豊かなブナ林をはじめとした山林があり、そこには多種多様な動植物が生息しています。こうした貴重な自然環境の森づくりの大切さや野生動物との共存のあり方について学びました。「自然や野生動物との共存の具体的な取組み」では、捕獲したクマを奥山に帰す取組みから人間とクマの共存の重要性を学びました。つづいて「伝統的なマタギ文化を伝承する実践活動」では、小国町に受



『野生生物と人間の共存を考える』講座



『野生鳥獣救護の現地学習』

け継がれているマタギ文化の伝統を守り自然と共生する生き方やその大切さについて学びました。会場を移しての「野生鳥獣救護の現地学習」では、けがをした鳥獣を自然に帰すための救護について学びました。参加者からは、「めったに出来ない体験をすることができた」「野生動物と人間の共存には、自然環境が大きく関与していることが分かりました」「危険だからといってクマをすぐに殺すのではなく保護して森に帰せるようになってから森に帰すことの大切さを学びました」など意見が出されました。これからの置賜地域を担う若い高校生等が、地域の自然環境を守り発展させていくことの契機になれたようです。

### 『県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業』

【置賜総合支庁福祉課】



いざ、森に出発!

平成22年度の「県民誰もが森と親しむ自然環境学習事業」は、7月に知的障がい者25名(授産通所施設利用者)及び精神障がい者11名(精神科デイケア利用者等)、9月には下肢障がい者6名及び視覚障がい者3名の参加をいただき、「源流の森」において森林体験を行いました。初めて参加する施設の方にとって、障がい者が森林体験を行うことについては不安もあったようですが、障がい者本人も引率した職員の方も、実際に体験しての感激は大きかったようです。障がい者の森林利活用はまだまだ進んでいない状況にありますが、当事業を通じて森の魅力を知っていただくことで、今後、利活用が広がっていくことを期待したいと思います。

7月の学習事業では、午後からの降雨により急ぎょ屋内での活動に変更を余儀なくされましたが、激しく降る雨の様子に感激して、大喜びで見入っていた参加者もいました。人の思い通りにならない自然の大きさが強く印象に残ったようで、帰ってからたびたび話題になったと聞きました。

9月の学習事業では、初めて身体障がい者を対象に実施しました。「源流の森」では森林介助案内研修に力を入れており、今回も現地案内を行うインタプリターが事前に森林環境における車椅子利用者、視覚障がい者の介助についての研修を行いました。研修に参加されたインタプリターのみなさんは非常に意欲的で、「源流の森」における障がい者の受入体制が整備されてきていることを実感し、大変心強く感じたところです。

参加者のみなさんからは、次のような感想をいただきました。

- ・普通なら気にせずに通り過ぎてしまうようなところを、インタプリターの方々がいろいろと説明してくれるので、新しい発見がたくさんあった。
- ・今まで触ったことのないような葉っぱを触らせてもらったのはうれしかった。
- ・障がい者が自分たちでこういった事業をすることは大変なので、協力をお願いしたい。
- ・また機会があれば、ぜひ呼んでほしい。

平成23年度は事業最終年度になりますので、障がい者のみなさんがより森林体験しやすい環境をつくるため障がい特性に配慮した常設プログラムを作成するなど、事業成果の普及を図る取組みに力を入れていきたいと考えています。



『源流の森』で森林体験

### 『やまがた絆の森プロジェクトの推進』

～平成22年度「やまがた絆の森プロジェクト」の実施状況について～ 【みどり自然課】

#### ●やまがた絆の森プロジェクトについて

県では、県民参加による森づくり運動の一層の拡充を図るため、従来進めてきた「企業の森づくり」に、地域振興の視点を加え、企業と地域とが一体となった取組みとして、県が積極的に関与する形に再編成し、「やまがた絆の森プロジェクト」を平成21年3月からスタートさせており、これまでに11社の企業の皆様と協定を締結し、延べ1,600人を超える方々が参加し、県内各地で森づくり活動や地域との交流が活発に行われました。また、平成23年度については、平成23年2月8日、新たに3社が加わり、計14社が森づくり活動を行うこととなります。

#### ●協定締結企業からの感想

- ・地域との交流のほか、他社の森づくり活動に参加したり、活動を通し新たな交流が生まれた。
- ・森づくりの地道な活動を体験し、森林維持の大切さを知ることができた。
- ・日ごろの運動不足解消と職員相互の親睦を図ることができた。

やまがた絆の森協定の締結概要

設置名称 (事業年度)	名称 (所在地)	企業名・団体名	森林所有者	設定面積(設定年数)	内 容
H21	1 キヤノンMJグループ未来の森 (飯豊町)	キヤノンマーケティングジャパン(株)	飯豊町中津川財産区	3.0ha (3年)	植 樹
	2 シェルター絆の森 (山辺町)	(株)シェルター	(財)作谷沢育英会	0.5ha (5年)	植樹・下刈
	3 荘銀かねやま絆の森 (金山町)	(株)荘内銀行	(有)三英クラフト	2.9ha (5年)	植樹・保育
	4 ぐるっと花笠の森【山形】(山辺町)	(株)山形銀行・山形信用金庫	山形県	2.5ha (5年)	植樹・下刈
	5 しんさん結の森・ぐるっと花笠の森【新庄】(新庄市)	新庄信用金庫・(株)山形銀行	新庄市・栄草山管理組合	21.0ha (5年)	植樹・下刈
	6 ぐるっと花笠の森【米沢】(米沢町)	(株)山形銀行・米沢信用金庫	米沢市	2.0ha (5年)	植樹・下刈
	7 ぐるっと花笠の森【鶴岡】(鶴岡市)	(株)山形銀行・鶴岡信用金庫	鶴岡市	2.0ha (5年)	植樹・下刈
H22	8 かねやま絆の森 (金山町)	山形ゼロックス(株)	(有)三英クラフト	4.28ha (5年)	植樹・保育
	9 南陽「草木の森」(南陽市)	国土防災技術(株)	(財)山形県林業公社	0.1ha (5年)	植樹・保育
	10 南陽イオンの森 (南陽市)	(公財)イオン環境財団	南陽市	5.0ha (3年)	植樹・保育
	11 やまぎん蔵王国定公園の森 (山形市・上山町)	(株)山形銀行	(財)山形県林業公社	238.0ha (7年)	7年間で120000tの吸収量を認証
	12 NDソフト・こもれびの郷 (南陽市)	NDソフトウェア(株)	南陽市	3.0ha (5年)	植樹・間伐
	13 おーばん琴の森 (尾花沢市)	(株)おーばん	尾花沢市第1財産区	10.0ha (5年)	植樹・保育
	14 山形県トラックの森 (山辺町)	(社)山形県トラック協会	畑谷地区二十三名共有地	2.47ha (5年)	植樹・保育
計	14社 (団体)			296.75ha	

### 『やまがた緑環境税事業の評価・検証状況について』

～平成22年度の評価・検討の作業状況～ 【みどり自然課】

県では、やまがた緑環境税条例において、施行後5年を目途に制度全体の点検・見直しを行うこととして、平成22年度にアンケート調査等により県民からの意見聴取を行うとともに、やまがた緑環境税評価・検討プロジェクトチームを設置し事業の点検を進めてまいりました。

平成22年度に実施した評価・検証に係る作業は下記のとおりです。

- (1) 会議：やまがた緑県民会議3回(震災のため第3回は書面による会議)、プロジェクトチーム会議3回
- (2) アンケート調査：

- ① 新世紀やまがた課題調査での県民意識調査 (11月8日公表)
- ② 林業まつり来場者アンケート (10月16～17日)
- ③ ごみゼロやまがた環境展来場者アンケート (10月2～3日)
- ④ 社団法人山形県法人会連合会会員企業アンケート調査 (8月～9月)
- ⑤ 山形ゼロックスフェア参加企業アンケート調査 (8月26～27日)
- ⑥ 森林所有者アンケート調査 (8月～9月)
- ⑦ 森林組合アンケート、聞き取り調査 (9月)
- ⑧ 森づくり活動団体を対象にした調査
- ⑨ 森づくり団体アンケート調査 (9月)
- ⑩ 森づくり報告会 (1月16日～2月6日 県内6地域)
- ⑪ 森づくり意見交換会 (11月15、17、18、19日県内4地域)
- ⑫ やまがた緑環境税 市町村担当課長会議 (11月15、17、18、19日 県内4地域)

今後、平成23年度にかけて、やまがた緑県民会議に諮りながら評価・検証作業を進めて参ります。